

分かることっておもしろい! 子ども大学ぎょうだ 参加者募集



市では、ものづくり大学、NPO法人子育てネット行田、行田市民大学と連携して、子どもの知的好奇心を刺激する学びの機会を提供することを目的とした「子ども大学ぎょうだ」を開校します。

授業では次の3分野を学びます

はてな学

ものごとの原理や仕組みを追求する

ふるさと学

地域を知り郷土を愛する心を育てる

生き方学

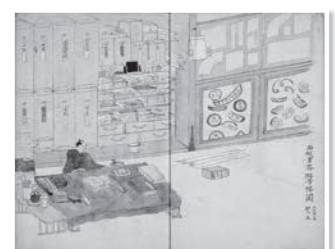
自分を見つめ人生や将来について考える

《学習プログラム》

日 時	場 所	内 容
7月12日(土) 午前8時45分～11時45分	ものづくり大学	・入学式 ・《はてな学》世界の建物を知ろう ・《はてな学》光ディスクについて知ろう
7月26日(土) 午前9時15分～正午	VIVAぎょうだ	・《生き方学》和菓子をつくろう 日本の食文化にふれよう
8月2日(土) 午前9時15分～11時45分	郷土博物館	・《ふるさと学》大昔の人のくらし探検 古代の行田をみつめよう ・学園祭の準備
8月30日(土) 午前9時15分～11時45分	産業文化会館	・学園祭の準備
9月27日(土) 午前9時15分～11時45分	ものづくり大学	・《ふるさと学》行田の川と自然 ・《はてな学》次世代の楽器!電子楽器について学ぼう ・修了式
10月中旬(実施日未定) 午前9時30分～午後3時	水城公園市民広場	・学園祭※10月実施予定の「浮き城のまち行田こどもまつり」で学園祭を行います。

- ▶対象 市内の小学4～6年生
- ▶定員 50人(申し込み多数の場合は6月25日(水)午後2時から教育委員会2階2B会議室で公開抽選会を行います)
- ▶参加費 1,500円(保険料、教材費などを含む)
- ▶申し込み ひとつくり支援課で配布している申込書に必要事項を記入の上、6月9日(月)～23日(月)に持参、郵送、FAXのいずれかの方法で提出してください。
【持参・郵送】〒361-0052 行田市本丸2-20 行田市教育委員会ひとつくり支援課
【FAX】556-0770
- ▶問い合わせ 子ども大学ぎょうだ実行委員会(ひとつくり支援課内) ☎556-8319

▼定員 80人
▼申し込み 11
▼問い合わせ 54-59
電話で郷土博物館 ☎5



石城日記(慶應義塾大学文学部古文書室)

市制施行65周年記念事業
第24回テーマ展 忍藩士の文化

江戸時代、忍城下に暮らした忍藩士たちはさまざまな武家文化を育んでいました。今回のテーマ展では、城下における藩士たちの生活の実態に加え、彼らの残した功績、さらには教養の礎となった藩校進脩館について当時の資料を用いて紹介します。

- ▼開催期間 7月5日(土)～8月31日(日)
- ▼開館時間 午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)
- ▼休館日 毎週月曜日(7月21日を除く)および7月22日(水)
- ▼入館料 大人200円、大学・高校生100円、小・中学生50円(団体料金 大人160円、大学・高校生80円、小・中学生40円)

講演会「江戸の食文化と忍藩士の食」
▼日時 7月13日(日)午後2時
▼講師 原田信男さん(国士館大学21世紀アジア学部教授)

全国藩校サミット行田大会

7月5日に行田で開催

全国藩校サミット行田大会がいよいよ7月5日(土)に産業文化会館で開催されます。全国藩校サミットは、藩校教育の伝統と精神を見つめ直し、現代へ受け継ぐことを目的に、毎年全国の藩校所在都市で開催しています。また、開催に当たっては、北は青森・弘前藩(稽古館)から南は鹿児島・鹿児島藩(造士館)まで、全国各地からの旧藩ご当主や藩校関係者が参加する予定です。

第1部は、藩校サミット研修会(加地伸行さんによる講演「国語教育の柱-漢字・古典・短文作り」)が、第2部は、参加藩の紹介や記念講演(神田紅さんによる講演「忍藩の歴史」)、埼玉小学校児童および忍藩子ども塾塾生による素読大発表が行われますので、ぜひお越しください。
なお、入場は無料ですが、入場整理券が必要となります。整理券(1人2枚まで)は、6月5日(木)からひとつくり支援課で配布します(先着順)。*土・日曜日、祝日を除く



忍城鳥瞰図

▶問い合わせ 第12回全国藩校サミット行田大会実行委員会(同課内) ☎556-8319

近代の学校教育と藩校で学んだ人々

藩校から近代教育へ
明治4年(1871)7月の廃藩置県により忍藩は忍県となり、同年11月の府県合同により岩槻県や浦和県と合併して埼玉県が誕生しました。廃藩により藩校も廃止となりましたが、藩が担っていた教育は忍県や埼玉県に引き継がれ、明治5年(1872)の学制発布を経て、近代の初等教育を担う体制が次第に整えられていきました。
忍城内や武家地には、藩校に代わって荒井学校や成田学校、北谷学校が設立されました。明治14年(1881)にこれらの学校が統合され、再び名称を進脩館とする学校が設立されました。この学校が同19年(1886)の小学校令により進脩館小学校となり、同25年(1892)に進脩館尋常小学校、同41年(1908)には佐間尋常小学校の廃止・分割により、忍進脩館尋常小学校となりました。そして大正10年(1921)に生徒の増加や校舎の老朽化のため行田尋常高等小学校と統合し、現在の中央小学校の前身となる忍町尋常高等小学校が広大な忍沼を埋め立てられて設立されました。藩校進脩館の扁額もこの学校に受け継がれ、中央小学校を経て、現在は郷土博物館に展示されています。



小山 健三
出典「小山 健三伝」より

藩校で学んだ人々
忍藩に限らず、全国各地の藩校で学んだ人々が明治という時代の中で経験や知識を身に付け、日本の近代国家を支える礎となっていたのです。
二人目は教育や経済界で活躍した小山健三です。小山は安政5年(1858)に忍城下に生まれ進脩館で学びました。理系の教員として長野県や群馬県で教壇に立った後、文部省の役人となり長崎県立師範学校長となりました。東京に戻った後も東京工業学校(現東京工業大学)教授や高等商業学校(現一橋大学)校長を歴任し、文部次官にまで上り詰めました。その後、経済界に転身して大阪市内本店を置く三十四銀行(現在の三菱東京UFJ銀行の前身の一つ)頭取をはじめ関西経済界の重鎮を歴任し、「関西の渋沢栄一」と呼ばれました。
忍藩に限らず、全国各地の藩校で学んだ人々が明治という時代の中で経験や知識を身に付け、日本の近代国家を支える礎となっていたのです。